

郷土芸能



士別市内には新旧合わせて9つの郷土芸能があります。その中で、古くから行われ現在に伝承されているものとして、朝日町の瑞穂獅子舞^{みずほししまい}、多寄町の日向神代神楽^{ひなたしんだいかぐら}があります。

朝日町の瑞穂獅子舞は、大正5（1916）年に奥士別神社（現朝日神社の前身）の祭典に五穀豊穡、悪魔払いの願いを込めて奉納するため、富山県の「越中礪波獅子」^{えっちゅうとなみじし}を模して舞ったのが始めと言われています。昭和44（1969）年には旧朝日町の文化財として指定され、その後士別市の指定文化財として登録されました。現在では、町民文化祭や朝日神社例大祭で舞が披露されています。



日向神代神楽は、明治41（1908）年に多寄町日向地区（現在の多寄町中多寄地区の西側）で始められた、岩手県一関市の「大門神楽」^{だいもんかぐら}をルーツに持つ神楽と言われています。かつては同地区にあった日向神社で、五穀豊穡・子孫繁栄などを願い、全部で9つの演目を三日三晩かけて奉納していたとされています。現在では、9つの内4つの演目のみが伝わり、町内の神社祭や町民文化祭などで舞を披露しています。

